

科目名	犯罪心理学Ⅰ	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			総合政策学部	□必修	■選択
			学部	□必修	□選択
英文表記	Criminal Psychology	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	おおぶち けんいち	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	大淵 憲一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	犯罪については誤った情報が溢れ、不必要な不安や偏見を生み出している。犯罪の実態を正しく認識した上で、その原因を心理学の観点から理解し、犯罪の予防や被害防止の方策を考える。				
到達目標	この授業の単位を履修した場合、次のような知識・能力を修得できる。 1. 犯罪とは何か、また、犯罪に関する日本と世界の現状と動向を知ることができる。 2. 犯罪の原因について、心理学の観点からこれが発生するプロセスや条件を、事例に基づいて理解することができる。 3. 科学的な犯罪理解の上に立って、個人として、社会として、犯罪予防と被害防止のために何が必要かを考えることができる。				
授業概要	我が国では、近年、犯罪が減少しているが、人々の犯罪不安は依然として高い。犯罪に対する科学アプローチとしては、犯罪発生の原因を探究する、犯罪捜査を支援する、刑事裁判のあり方を分析する、犯罪者の更正を支援する、犯罪予防の方策を検討する、など種々のものがある。この講義では、犯罪原因論に的を絞り、犯罪の社会的要因と個人的要因についての心理学的研究と理論を紹介し、また、犯罪原因の統合的理解を目指すとともに、犯罪予防と被害防止の方策を考察する。				
授業計画					
第1回	講義概要と成績評価の説明				
第2回	無差別殺人の心理				
第3回	現代日本の犯罪動向1				
第4回	現代日本の犯罪動向2				
第5回	犯罪原因の科学的研究				
第6回	犯罪研究の枠組み：説明の5水準				
第7回	犯罪の社会的要因：緊張理論				
第8回	犯罪の社会的要因：社会的ストレス				
第9回	犯罪の社会的要因：下位文化理論				
第10回	犯罪の社会的要因：集団の役割				
第11回	緊張理論と下位文化理論の統合				
第12回	犯罪の社会的要因：社会的絆				
第13回	犯罪の社会的要因：環境犯罪学				
第14回	犯罪のパーソナリティ理論：犯罪者の人物像				
第15回	犯罪の発達理論：発達の追跡研究の成果				
第16回	前期定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所に必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 授業期間中、理解度を確認するために何度か小テストを行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。(1.5時間程度) 3. 犯罪事件を報道する実際の新聞や雑誌に目を通しておいてください。(0.5時間程度)				
履修条件					

受講のルール	
テキスト	大湊憲一 『犯罪心理学』 培風館 ※教科書に載っていないトピックを扱う時には、その都度資料を配布します。
参考文献・資料	森丈弓他 『司法・犯罪心理学』 サイエンス社
成績評価の方法	講義時間中に 4 回小テストを実施して学力評価を行い、これに受講態度の評価を加味して成績評価を行います。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	犯罪や非行はけっして遠い世界の話ではなく、皆さんの身近に存在しているものです。授業では、日本の近年の犯罪・非行の実態から始め、犯罪や非行はどうして起きるのか、どうやったら防げるのかということなどを、科学的根拠に基づいて解説していきます。